

平成29年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

【学校名】 佐世保市立広田小学校

【所在地】 佐世保市広田1丁目25番4号

【校長】 沖島 宏幸

【学校規模】 36学級 児童数1051名 (H29.5.11)

【学校教育目標】

主体的に考え 正しく判断して行動できる

心豊かでたくましい子どもの育成



【小学校舎（1～5年）】



【中学校舎（6年）】

1 委託期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

2 目的

(1) 小中一貫型教育の推進

広田小学校、広田中学校の小中一貫型教育のスタートにあたり、本年度は、これまでの計画をもとに実践を行い、児童が学習・生活を進めていく上での環境面の整備を行う。また、取組の内容については、学校だよりや小中連携だより等で保護者や地域への周知を継続していく。本年度の具体的な取組について、反省をし成果と課題を明確にし、課題については、方策を考え、最大限の成果が上がるように努める。

(2) 地域人材を生かした体験活動による、心豊かな児童の育成

1000名を超える大規模校ではあるが、地域の「人・もの」に恵まれ、様々な体験活動を実施することができる。学年の発達段階に応じた体験と地域の方々との交流は、教科等の学習だけでは体得できないものであり、体験を通して学んだ内容は総合的な力の育成となる。また、読書への興味・関心を高め、様々な本との出会いを促すため、図書ボランティア「よむよむ」の協力による読み聞かせや図書室の整備を行い、幅広い学力の育成を図る。

(3) 課題を明確にした学力向上の推進

年度初めに行われる、全国学力学習状況調査（6学年）、県・市の学力テスト（5・4学年）に加え、2・3学年も学力調査を実施する。結果を分析し、本校児童の課題を明確にし、指導法の研究を行ったり学習教材の整備をしたりする。また、活用する力を育成したり、そのための基礎となる「基本的な学力」を定着させたりするため、課題に応じたプリント集等を整備する。さらに、小中間での学習習慣の確立等基本的な生活習慣の定着に向けた取組や、集中力・基礎的学力を付けるための「朝の時間の活用」を学校全体で工夫する。

3 実践内容

(対象学年・時期・活動場所・活動内容等を具体的に記入する)

(1) 小中一貫型教育の推進

① 6年生が中学生と一緒に取り組んだ学校行事

※始業式・終業式は小学校で実施
 ※前期始業式のあと「出発式」(小学校舎)
 「歓迎式」(中学校舎)
 ※体育大会
 ※文化発表会の合唱コンクールに参加
 ※マラソン大会(距離を短くして6年生も参加)

期 日	集会・行事等
4月6日(木)	6年生歓迎式
4月13日(木)	部活動紹介
6月1日(木)	いのちを見つめる日 校長講話
6月29日(木)	6.29 平和集会
7月20日(木)	前期前半終了 全校集会
8月9日(水)	8.9 平和集会
9月1日(金)	前期後半開始 全校集会
9月24日(日)	中学校 体育大会
10月19日(木)	文化発表会
12月8日(金)	マラソン大会



② 生徒会活動と連携した児童会活動

基本的に、中学校生徒会に準じて活動を行い、学校行事の運営や様々な自治的活動等、魅力ある学校づくりに参画。

<中学校の専門委員会>

(1) 学習 (2) 生活 (3) 図書文化 (4) 放送 (5) 美化 (6) 厚生 (7) 保健体育

- 6年生は「係活動」として位置づけ、学級を中心に活動している。
- 内容によっては中学生と一緒に活動している。

③ 中学校部活動体験 (10月～火か水曜日の放課後 1回55分間：月2回程度)

- 中学校の部活動に対する興味・関心を高めたり、活動の活性化を図ったりするため、6年生に対して、現存の小学校社会体育活動に支障がない範囲で、中学校の実情に応じて可能な部活動のみ、希望者に体験活動を実施。



④ 1～5年との交流活動

- 歓迎遠足：小学校で参加
- クラブ活動：(年間10時間程度)は、小学校で実施。
- 縦割班活動
＜4～9月まで＞朝の時間(20分程度)を使って4回実施



＜後期：10月より＞ 別の方法で交流の場を設定

- ・ 小学校舎の1～5学年が、機会をとらえて中学校舎を訪れ交流を行う場を設定。
1年生：修学旅行前に、天気がよくなるようにと「てるてる坊主」を作って6年教室まで届ける。
3年生：町探検の途中で、6年教室に立ち寄る。
5年生：6年生が中学校舎での生活の様子を、5年生に教える活動。
- ・ 次年度も、学年ごとに6年生との交流の場を設けていく。

⑤ 保護者への説明会の場を設定

- ・ 後期に入り、小中一貫型教育の進捗状況について全家庭保護者を対象に説明会を行った。また、1月には5年保護者を対象に説明会を開き、6年校舎での生活の様子や次年度の予定について周知を図った。参加できなかった家庭には資料を配付した。説明会後は、「小中連携だより」を発行し、保護者・地域に取組の経過を知らせ共通理解を図った。

(2) 地域人材を生かした体験活動による、心豊かな児童の育成

第1学年：保幼との交流会(生活科：1～2月)

新1年生として入学してくる保育園・幼稚園児を本校に招待し、交流の場を設定する。生活科の学習で取り組んだ「お正月の昔遊び」(福笑い・コマ回し・羽子板・お手玉・けん玉)などの遊びで共遊する活動を設定した。1年生児童は、先輩として優しく丁寧に遊び方を教えるなど思いやりの心情が育った。また、今後の交流学習に向けても意欲の高まりが見られた。

また、4月から始める「保幼小連携スタートカリキュラム」作成と実施に向け、互いに園と学校間を訪問し、1年担任と保幼小担任が年に数回情報を交換する時間を設定した。



第2学年：サツマイモの栽培(生活科：5月～10月)

J A西海農協の協力により、学校の花壇でサツマイモのツル差しを行い、秋にはたくさんの芋を収穫することができた。収穫した芋を使って保護者と協力し、「おいもまつり」を開催した。そこにはJ Aの方に対する感謝の気持ちと招待した1年生に対する引継ぎの心をもって参加していた。

栽培活動を通し、野菜等の栽培へ関心をもつ子が増えた。



第3学年：昔遊び交流会（総合的な学習：6月・11月）

本年度もGTとして地域のお年寄りをお招きして、昔遊びを通じた交流会を実施した。けん玉、あやとり、おはじき、羽子板お手玉などの昔遊びをお年寄りの方々に教えていただいたり、共に遊んだりすることで、子どもたちは日本の伝統文化を体験し、お年寄りから多くのことを学ぶことができた。

またその技の巧みさに、尊敬の念を感じることができた。道具の多くが老朽化しているため、次年度へ向けた道具の整備を行った。地域に伝わる伝統行事について学ぶ活動では、地域の様子に詳しい方をGTとして招待し、わかりやすく話をしていただいた。子どもたちは熱心に話に聴き入り、自分たちの住む広田の町により愛着を感じることができた。

その活動から、広田の歴史にも興味を広げ、住吉神社や古墳跡地、広田城跡などの地域の史跡を調べるという活動につなげることができた。



第4学年：長崎平和学習・花の栽培活動（総合的な学習：6～7月・10～3月）

6月に行った長崎平和学習では、長崎さるくガイドの方々の話を真剣に聞き、平和の尊さについて理解を深めることができた。また、初めて見る被爆遺構や原爆資料館の展示物から子どもたちは、平和を守り抜く気持ちを強くした。適切などころでわかりやすい説明をしていただき、「さるくガイド」の活用は、大変効果的であった。

11月には、ボランティア「花づくり協力隊」の協力を得て、卒業式・入学式へ向けた花の栽培活動に取り組んだ。地域のお年寄りとの交流を楽しむとともに、草取りや水やり活動を通して、植物を大切に育てようとする心が育った。



第5学年：「命と食について考えよう」大豆の栽培・味噌作り（総合的な学習：4～11月）

J A西海農協の協力で、学校の敷地内で大豆の栽培を行い、味噌をつくる活動を行った。収穫できた量は少なかったものの、水やりや雑草抜きなどの常時活動を通して、植物栽培の難しさを味わったり、自分たちで栽培した大豆で味噌づくりをする体験をし、加工する伝統の知恵を学んだりすることができた。児童は、人間の命は動植物の命によって支えられていることに気付くとともに学んだことを壁新聞にまとめ、校内に掲示して他学年の児童に伝えることもできた。



本校は、長崎国際大学が近隣にあることを生かし、例年大学の施設で児童が日本文化等に関する体験学習を行ったり、海外からの留学生を招待して交流学习を実施したりしている。こうした活動を通して、児童の国際理解に関する意識が深まってきている。また、本年度は、小中一貫型教育を生かし中学校教諭による「出前授業」を行い、華道体験も実施することができた。

○「茶道体験学習：日本の伝統文化を考える活動」

6月に、長崎国際大学の茶室で、茶道の専門家と茶道部の学生の方から指導を受け「侘び・寂び」の世界を味わうことができた。最初は緊張していた様子だった児童も、丁寧に指導をしていただいたおかげで興味・関心をもって取り組み、品格の向上と礼儀の体得という茶道が求める精神世界にふれ、日本のよき伝統を守りたいという気持ちが高まった。



ここで学んだ礼儀やマナーが、普段の生活でも発揮できるように学校での指導を行っている。

○「留学生との交流：国際理解教育」

7月と10月に、長崎国際大学の留学生との交流学习を行った。毎年、様々な国の留学生と実際にふれあい、それぞれの国の文化について学んだり、日本の伝統的な遊びを共に楽しんだりする活動を行ったりしている。本年度は、中国・香港・韓国の留学生と交流し、それぞれの国の文化や遊びについて紹介していただいた。また、児童が作成した日本文化についてのパンフレットを渡したり、日本の遊びを紹介したりする活動を通して双方向の交流ができた。



これらの活動を通して、児童は外国の文化を体験的に理解し、異文化への興味・関心を高めるとともに、日本の文化についても改めて見直す機会となった。さらには、外国語活動の学習への関心が高まった。

(3) 課題を明確にした学力向上の推進

校内研修テーマ「自ら進んで課題に向き合い、考え、まとめ、自分の思いを表現する子どもの育成」に向け、以下の点に重点的に取り組んだ。

① 既習の学習内容の定着度の確かめ、基礎・基本の徹底【国語・算数】

○ 4～6学年は、国・県・市が実施する学力調査を実施。2・3学年については、学力調査を別途実施した。それぞれの結果を分析し、基本的な学習内容の定着に向けた対策を立てた。各教科課題別のプリント集を整備することで、個に応じた学習教材（ワークシートや課題プリント）を提示することができた。

○ サマーチャレンジ（夏休み学習会）の実施

本年度も、夏休みに「サマーチャレンジ」を実施した。本校職員の指導に加え、佐世

保東翔高校の生徒が学習ボランティアとして学習補助にあたることで、充実した個別指導ができた。4年生以上の算数に苦手知識をもつ児童を対象に、プリント教材を使って7月までに学習した算数の繰り返し学習に取り組んだ。



○ 朝のチャレンジタイム（月・水・金曜日朝の時間帯8：30～8：45）

15分間を「チャレンジタイム」とし、プリントでの基礎基本学習を行うことにより、計算力などのスキルアップを図った。また、本年度は、コミュニケーション力を付けるための活動にも取り組み、自分の考えや思いを表現する力の育成に努めた。

② 授業力を高める工夫

児童の学力の充実と、意欲・関心を高めることを念頭におき、次のような授業改善に取り組んだ。

○ 同学年による授業研究の活性化

大規模校である本校では、初任者をはじめとする若手教員も多く、同学年による話し合いや授業研究等を通して学年統一した指導体制の構築を図った。特に本年度は、以下の2点について取り組んだ。

ア 毎時間の授業について「めあて」と「まとめ」を明確にした授業実践

イ 「かいて伝える」言語活動の充実

○ 少人数・TT授業による理解度に応じた学習指導

6年生の中学校舎移動に伴い生じた「空き教室」を活用し、個の理解度に応じた指導体制の充実を図った。（6年生校舎でも実施）

③ 読書活動の推進

木曜の朝の時間帯は「朝読書」の時間とし、読書活動に取り組んでいる。本年度も、読み語りボランティアグループ「よむよむ」の協力を得て、学年毎に絵本の読み語りを行った。（6年生校舎でも実施した）

全学年の児童が、読み語りをとっても楽しみにしており、年々読書への意欲が高まっている。以前は、絵本や漫画系の書物を選ぶ児童が多かったが、長めの文章の書物を選ぶ児童が増えてきた。



4 成 果

(1) 小中一貫型教育の推進

① 中1ギャップの解消へ向けた取組

6年生が、中学校行事等へ関わることを通して中学生及び中学校職員との日常的な交流が進み、違和感なく中学校生活へ移行するための準備ができている。また、小中の教職員が連携して児童・生徒理解に応じることができており、小学校から中学校への継続した見守りができている。

② 学習面の効果

中学校教職員の専門性を生かした授業（乗り入れ授業）を行うことで、学習意欲及び技能の向上と中学校へのつながりができている。【外国語活動・音楽・書写】

また、体育の授業の中で、中学校教諭の助言を受けることでスキルアップを図ることができた。

算数については、中学校6年校舎少人数教室を活用し、5年生時と同様に少人数指導授業できめ細やかな指導を行っている。中学生の学びを見て、以下のような学習習慣が確立した。

- ・ノーチャイムによる、時計を見て自発的に行動すること。
- ・始業前の黙想で集中して学習を始めること。
- ・中学生に準じた「自学ノート」の活用による家庭学習の習慣化

③ 6年生のリーダー性の育成

歓迎遠足、クラブ活動、1～5年との交流活動など小学校舎での活動も継続して取り組ませることでリーダー性を発揮させる場面を設定した。中学生と接することでここがれをもち、集団行動の仕方などを身に付け、全ての子どもたちがリーダーとしての在り方を学び、小学校舎での活動において下級生の手本となっている。

④ 5年生のリーダー性の育成

入学直後の数週間、給食配膳の準備や掃除などの手伝いなど、1年生のお世話に取り組んだ。これまで、6年生が取り組んでいた正門前での「あいさつ運動」、朝の校内清掃ボランティア活動、委員会活動での4年生への指導などに1年間を通して取り組み、小学校舎でのリーダーとしての自覚が育った。

(2) 地域人材を生かした体験活動による、心豊かな児童の育成

本年度も、生活科・総合的な学習の時間の学習を通して、各学年の発達段階に応じて、地域の「人材・もの」を生かした体験活動を企画・運営することができた。

1～3学年では、地域のお年寄りや幼稚園・保育園児とのふれあい、野菜栽培を通して、自然に触れる体験や昔の生活体験などにつなげることができた。

4～6学年では、平和教育、食育、国際理解と、地域の環境や人材を生かして、テーマを絞った教育活動を展開することができた。4年生は、長崎市の見学を通して生きた平和学習に取り組み、平和の尊さを実感することができた。5年生は、大豆栽培を起点に、味噌づくり体験につなげ、社会科の学習と関連付けて食料自給率の問題について考えたり、食の安全性について考える活動に広げることができた。6年生は、国際大学との交流を通して、日本文化について学びを深めることができた。また、異文化を理解することの必要性を学び、これからは自分たちが諸外国と積極的に関わっていくことが大切であることに気付くことができた。

(3) 課題を明確にした学力向上の推進

年度始めの学力テストは、2・3年生も実施することで、国語・算数において、各学年ごとの課題、全校的な課題を把握することができた。昨年度よりプリント資料集を整備してきたことで、個に応じた練習問題を与えることができた。また、苦手な領域に絞った反復学習にも取り組むことができた。

本校の児童に、自分の考えを筋道立てて説明する力を付けるために、校内研修では思考の過程を文章や絵・図などでかいて説明する場面を授業の中に設定した。さらに、小グループで互いに考えを伝え合う「あいあいタイム」を設定することは、普段の授業の中でも定着してきた。

B問題（活用問題）は読解力を必要とする。図書ボランティア「よむよむ」の読み語りにより、低学年時から書物への親しみをもち、図書室の貸し出し冊数も増えてきた。高学年になるにつれて、少しずつ文章量の多い書物を選ぶ児童が見られるようになった。

5 今後の課題

① 小中一貫型教育のさらなる充実に向けて

6年生と下学年との交流活動を充実させるために、1～5年との交流活動の内容と時間について設定の仕方を工夫する。また、下学年が中学校舎へ出向き6年と交流する機会を増やす。また、小中一貫型教育の導入に伴い、9か年間を見通した学習指導や基本的な学習習慣の確立を目指していく必要がある。地域の「人材やもの」を有効に活用し、9年間を見通した特色あるカリキュラムづくりを進めていく。

- 総合的な学習：主体的に学ぶ力を育む。地域をより理解する。
- 外国語：平成32年度からの年間70時間実施へ向けて
 - ・ 指導時間・内容の検討
 - ・ 中学校教諭の専門性を生かした指導方法の研修
- 学習規律の定着
 - ・ 家庭学習の在り方を含めた学力向上をめざした学習を進めるためのルール作り

② 学力向上に向けて

- つまづきを分析し、全校での課題克服に向け系統立てた指導を徹底する。
- 「夢・憧れ」を抱かせる本物の体験活動を計画する。
- 家庭と連携して、生活習慣・学習習慣の定着を図る。
- 学習支援ボランティアを募り、きめ細かな個別指導の推進を図る。